



### 感謝を込めて

#### 父の日に牛乳を贈ろう

町の酪農家が運営する熊本市酪農農業協同組合婦人部の吉川恵子部長と古田朱実副部長が6月10日、後藤三雄町長、井手義隆副町長と赤峰洋次教育長に牛乳を贈呈しました。これは、牛乳が「ちち」とも呼ばれることから、健康祈願と感謝を込めた父の日の定番ギフトとして定着させるため、牛乳の消費拡大キャンペーンの一環として展開。来年の父の日には、免疫の強化や整腸作用、血流の改善、不眠の解消が期待できる牛乳を大事な人に贈りませんか。



「この牛乳を飲んで頑張ってください」と牛乳が渡されました

### 避難生活中もお口を清潔に

#### 抗菌コーティング「ピカッシュ」で入れ歯洗浄

(株)ピカッシュ(株)愛歯関連会社)と町内の歯科医師が5月26日、避難所の老人福祉センターを訪れ、入れ歯洗浄サービスを行いました。避難生活が長引き、口腔内を清潔に保てないと、肺炎などを起こす危険性があるため、十分な口腔ケアが必要です。銀のプラスイオンで入れ歯をコーティングする「ピカッシュ」は、入れ歯の臭いや汚れを付きにくくし、手入れを簡単にすることができます。参加者は「入れ歯のぬるぬるがなくなってすっきりしました」と喜んでいました。



避難者から口腔の状況を聞き取る歯科医師

### 積み木で笑顔に 奈良県産木材を使った積み木の贈呈式

震災支援として本町に職員を派遣していた奈良県庁から5月30日、奈良県産木材を使用した積み木を町内保育所などに頂きました。園児代表として積み木を受け取った、もみじ園とさくら園の子どもたちは「積み木でいろいろな物を作りたい」と喜んでいました。 同県奈良の木ブランド課の中森功征課長補佐は「被災した子どもたちが少しでも笑顔になってくれたら」と話しました。



贈呈式で積み木を受け取り喜び子どもたち

### 地震を乗り越え 菊陽南小学校「鼻ぐり井手子どもガイド」

菊陽南小学校「鼻ぐり井手子どもガイド」が5月14日、菊陽町鼻ぐり井手公園で行われました。児童は大人のボランティアガイド2人と日ごろの学習成果を披露。南小の5・6年生20人が5班に分かれて来園者を案内しました。児童のほとんどが被災し、家の片付けを手伝いながら、子どもガイドに取り組みました。 最後は熊本県の被災者へエールを送り、「菊陽南小、頑張ろう！」と空高く声を上げました。



「菊陽南小、頑張ろう！」と声を上げる児童

### 一緒に給食を食べて交流

#### 姉妹都市・屋久島町の安房中学生と交流

姉妹都市・鹿児島県熊毛郡屋久島町の安房中学校(竹本准校長)の生徒35人が5月31日、修学旅行の途中に菊陽中学校を訪れ、食を通して交流しました。

生徒たちは2年生の各教室で一緒に給食を食べ、和やかなムードの中、それぞれの特産物や自然などを紹介。菊陽中の生徒は熊本城や阿蘇、天草、くまモン、だんご汁、高菜ご飯、にんじんサラダなどを写真を交えて紹介し、安房中の生徒は屋久島の自然やたんかん、飛び魚を自分たちで描いたイラストで紹介しました。

安房中の生徒は「僕たちが住む屋久島町安房は飛び魚の水揚量が日本一。飛び魚は『あご』と呼ばれることもあり、あごせんべいやあごふりかけ、飛び魚ラーメンなどのおいしい加工食品があります」と話していました。安房中の山下碧乃さんは「緊張していたけど、話しかけてくれてうれしかった。写真で熊本城も見れて良かった」と笑顔を見せました。菊陽中の上野晃太郎さんと小出榮さんは「安房中の生徒と話したり発表を聞いたり質問したりして屋久島のことをたくさん知れた。とても楽しかった」と満足気に話しました。



1おいしい給食を一緒に食べて交流する菊陽中と安房中の生徒 2熊本や菊陽町を紹介する菊陽中の生徒 3屋久島町の特産品を紹介する安房中の生徒

### みんなで虫歯予防！日常へ戻ることが復興への第一歩 平成28年度菊陽町内フッ化物洗口開始

フッ素を利用して虫歯ゼロを目指す、フッ化物洗口が5月31日から菊陽西小学校を皮切りに町内各小学校で始まりました。 フッ化物洗口とは、洗口液を口に含んで1分間うがいをするもの。歯磨きは健康習慣に欠かせないもので、フッ素は歯の質の強化や抗菌作用、再石灰化を促進します。学校でフッ化物洗口を定期的に行うことでこれらの効果も高まります。 今回起きた地震によるストレスで緊張状態が長く続くと、交感神経が優位に働き、唾液が出てにくくなりま

す。そのため、口の中が潤いてネバネバしたり、免疫機能の低下や虫歯の増加などの症状がでてきたりします。このようなときこそ、フッ素をうまく利用することで、予防することができま。口の中の清潔が健康維持の鍵です。 子どもたちは、今回の地震で身の安全を脅かされ、心が傷付き、今までの日常が変わる体験をしました。その中で、地震前にしていた虫歯予防などの学校生活になるべく早く戻すことは子どもたちにとって心の安定につながります。



1一分間のうがいで虫歯ゼロを目指す西小の児童 2洗口液を取りにくる児童 3西小のフッ化物洗口に協力してくれている保健特別委員会のお母さんたち